資料３

滝川市における交通事故の推移と発生状況

１　全国・北海道・滝川市の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生件数及び死傷者数は、第８次計画の最終年（平成27年）と第９次計画平均を比較すると、全国、北海道及び滝川市ともに減少しています。滝川市においては平成29年に２件、平成30年に１件、令和元年に１件の死亡交通事故が発生したが、平均の数値は減となっています。

注　指数は、第８次計画最終年である平成27年数値を100とした数値です。

（１）　発生件数

		第８次計画期間（H23-27）			第９次計画期間（H28-R2）					
		初年（H23）	最終年（H27）	平均	平成２８年	平成２９年	平成３０年	令和元年	令和２年	平均
全国	件数	692,084	536,899	619,403	499,201	472,165	430,601	381,237	309,178	418,476
	指数	128.9	100.0	115.4	93.0	87.9	80.2	71.0	57.6	77.9
北海道	件数	16,395	11,123	13,697	11,329	10,815	9,931	9,595	7,898	9,914
	指数	147.4	100.0	123.1	101.9	97.2	89.3	86.3	71.0	89.1
滝川市	件数	108	74	89	63	45	53	55	42	52
	指数	145.9	100.0	120.3	85.1	60.8	71.6	74.3	56.8	69.7

（２）　死者数

		第８次計画期間（H23-27）			第９次計画期間（H28-R2）					
		初年（H23）	最終年（H27）	平均	平成２８年	平成２９年	平成３０年	令和元年	令和２年	平均
全国	件数	4,691	4,117	4,349	3,904	3,694	3,532	3,215	2,839	3,437
	指数	113.9	100.0	105.6	94.8	89.7	85.8	78.1	69.0	83.5
北海道	件数	190	177	184	158	148	141	152	144	149
	指数	107.3	100.0	104.0	89.3	83.6	79.7	85.9	81.4	84.0
滝川市	件数	0	6	2	0	2	1	1	0	1
	指数	0.0	100.0	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	13.3

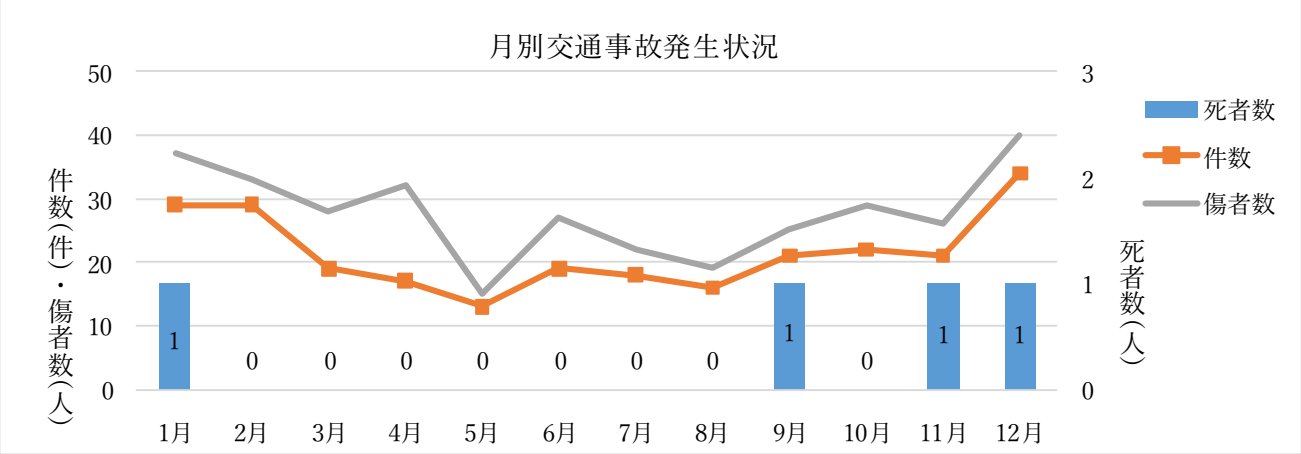
（３）　傷者数

		第８次計画期間（H23-27）			第９次計画期間（H28-R2）					
		初年（H23）	最終年（H27）	平均	平成２８年	平成２９年	平成３０年	令和元年	令和２年	平均
全国	件数	854,613	666,023	767,779	618,853	580,850	525,846	461,775	369,476	511,360
	指数	128.3	100.0	115.3	92.9	87.2	79.0	69.3	55.5	76.8
北海道	件数	19,705	13,117	16,338	13,489	12,673	11,494	11,046	9,043	11,549
	指数	150.2	100.0	124.6	102.8	96.6	87.6	84.2	68.9	88.0
滝川市	件数	128	94	111	81	61	72	69	50	67
	指数	136.2	100.0	118.1	86.2	64.9	76.6	73.4	53.2	70.9

2　月別交通事故発生状況

月別の死者数では、総体的に冬に多い傾向となっており、夏期間については比較的死亡事故は少なくなっています。

また、件数・傷者数についても、12月が最も多くなっており、冬期間に増加する傾向があります。

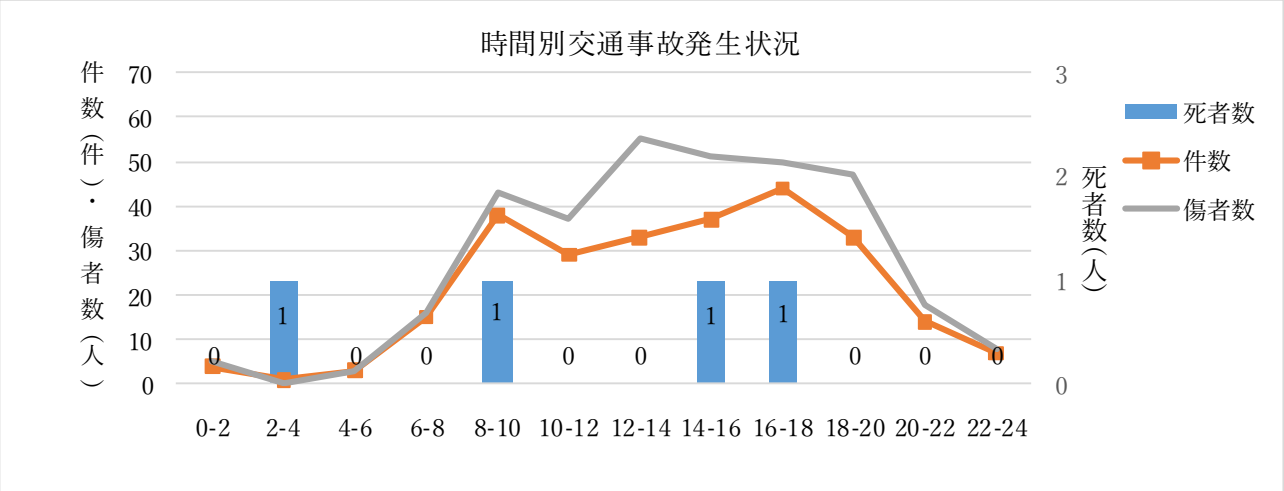


	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
死者数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
件数	29	29	19	17	13	19	18	16	21	22	21	34
傷者数	37	33	28	32	15	27	22	19	25	29	26	40

3　時間別交通事故発生状況

２時間ごとに見た発生時間別の死者数では、8時から10時、14時から18時、2時から4時に発生しています。

また、件数は16時から18時、傷者数は12時から14時までが最も多くなっており、０時から６時までは少なくなっています。

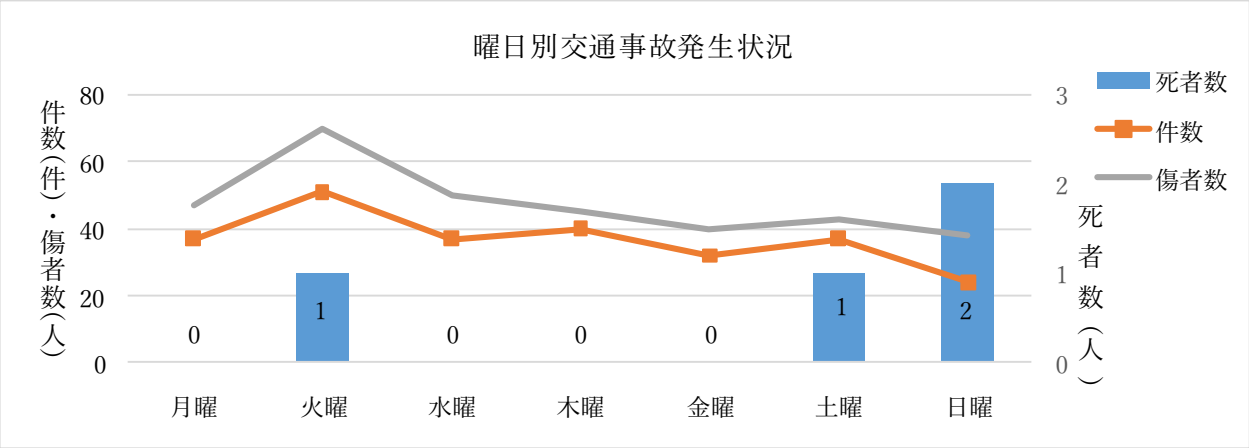


	0−2	2−4	4−6	6−8	8−10	10−12	12−14	14−16	16−18	18−20	20−22	22−24
死者数	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
件数	4	1	3	15	38	29	33	37	44	33	14	7
傷者数	5	0	3	16	43	37	55	51	50	47	18	8

4　曜日別交通事故発生状況

曜日ごとに見た発生時間別の死者数では、最も多いのは日曜日となっています。

また、件数・傷者数については、曜日にかかわらずまんべんなく起きていますが、火曜日がやや多くなっています。

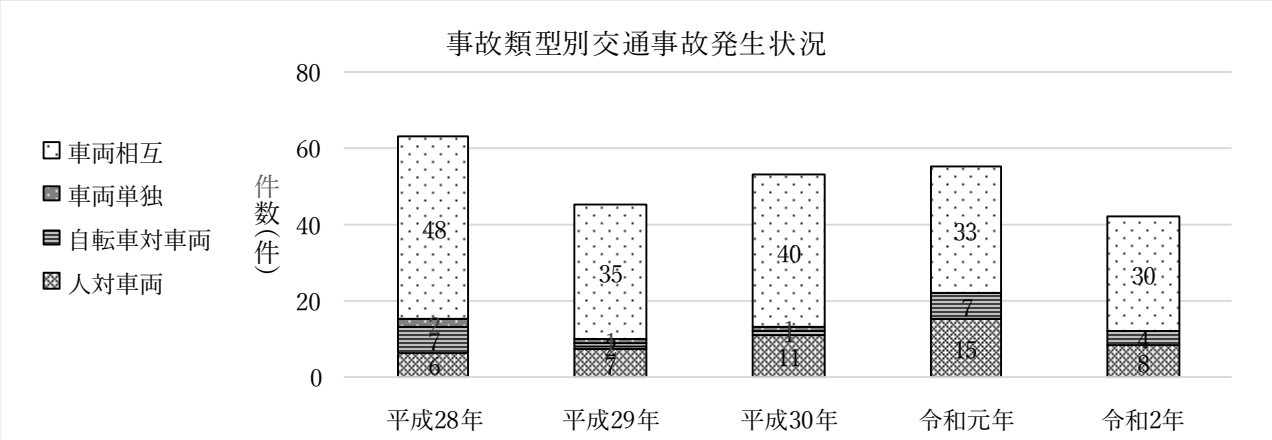


	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
死者数	0	1	0	0	0	1	2
件数	37	51	37	40	32	37	24
傷者数	47	70	50	45	40	43	38

5　事故類型別交通事故発生状況

（1）　全体的状況

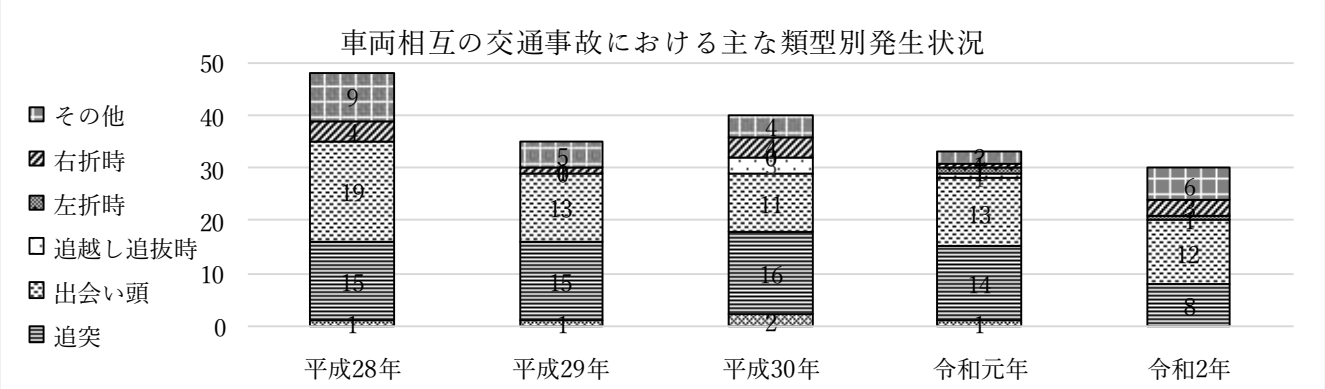
平成28年から令和２年までの間に交通事故が258件発生しました。事故類型別では、最も多いのは車両相互186件（72.1%）で、以下人対車両47件（18.2%）、自転車対車両21件（8.1%）、車両単独４件（1.6%）でした。



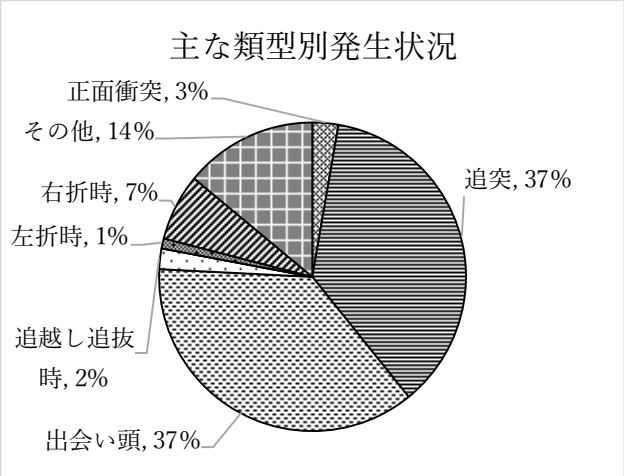
	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
人対車両	6	7	11	15	8
自転車対車両	7	2	1	7	4
車両単独	2	1	1	0	0
車両相互	48	35	40	33	30

（２） 車両相互の交通事故における主な類型別発生状況

平成28年から令和２年までの車両相互の交通事故186件のうち、状態別では、最も多いのは出会い頭と追突が同数で68件（36.6%）、右折時13件（7.0%）などでした。

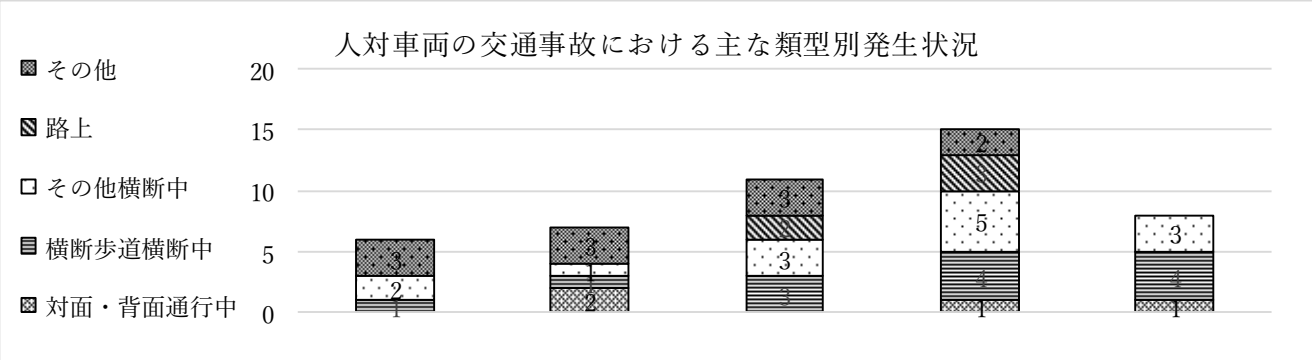


	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
正面衝突	1	1	2	1	0
追突	15	15	16	14	8
出会い頭	19	13	11	13	12
追越し追抜時	0	0	3	1	0
すれ違い時	0	0	0	0	0
左折時	0	0	0	1	1
右折時	4	1	4	1	3
その他	9	5	4	2	6

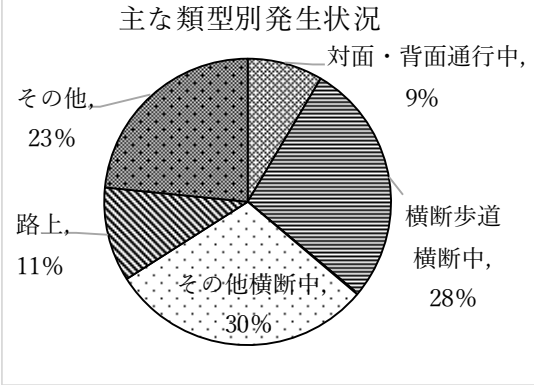


（３） 人対車両の交通事故における主な類型別発生状況

平成28年から令和２年までの人対車両の交通事故47件のうち、状態別では、最も多いのはその他横断中14件（29.8%）で、以下横断歩道横断中13件（27.7%）などでした。

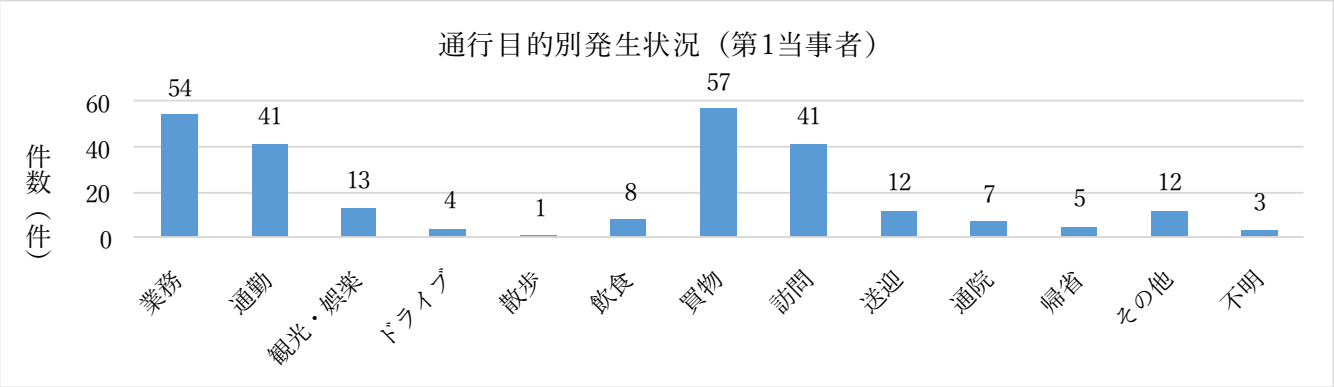


	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
対面・背面通行中	0	2	0	1	1
横断歩道横断中	1	1	3	4	4
その他横断中	2	1	3	5	3
路上	0	0	2	3	0
その他	3	3	3	2	0



６　第１当事者の通行目的別発生状況

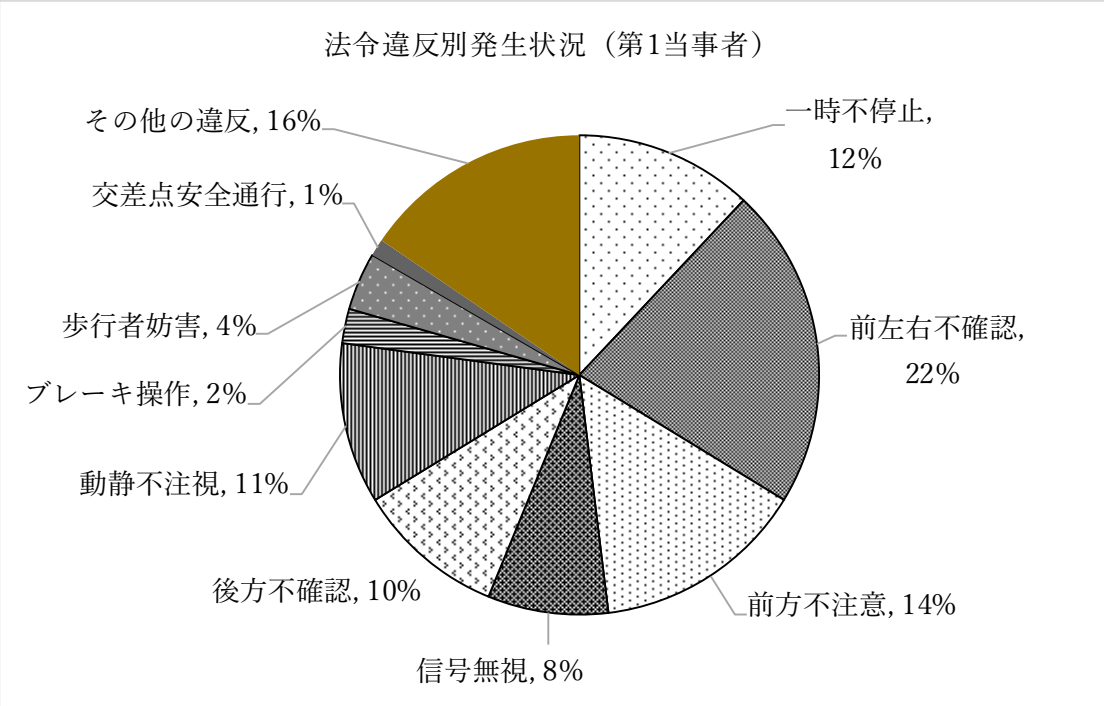
平成28年から令和２年までの交通事故258件の第１当事者（交通事故に関係したもののうち過失が最も多い者をいう。以下同じ。）の通行目的別発生件数では、最も多いのは買物57件（22.1%）で、以下業務54件（20.9%）、通勤、訪問各41件（各15.9%）などでした。



	業務	通勤	観光・娯楽	ドライブ	散歩	飲食	買物	訪問	送迎	通院	帰省	その他
件数	54	41	13	4	1	8	57	41	12	7	5	12

７　第１当事者の法令違反別発生状況

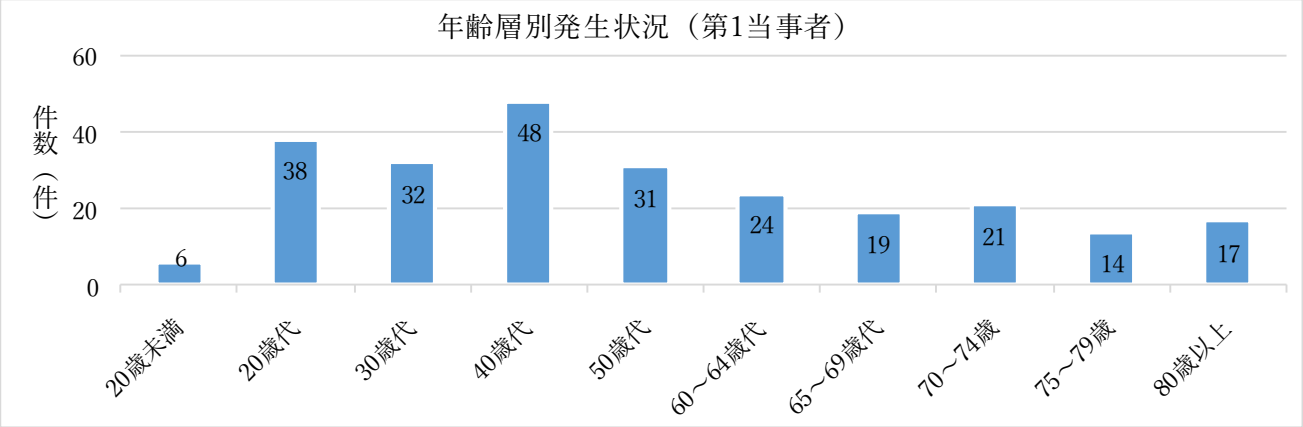
平成28年から令和２年までの交通事故258件の第１当事者の法令違反別発生件数では、最も多いのは前左右不確認56件（21.7%）で、以下その他の違反40件（15.5%）、前方不注意37件（14.3%）、一時不停止31件（12.0%）などでした。



	一時不停止	前左右不確認	前方不注意	信号無視	後方不確認	動静不注視	ブレーキ操作	歩行者妨害	交差点安全通行	その他の違反
件数	31	56	37	21	26	28	6	10	6	40

8　第一当事者の年齢層別発生状況

平成28年から令和２年までの交通事故258件の第１当事者（ドライバー）の年齢層別発生件数では、最も多いのは65歳以上の高齢者71件（28.6%）、以下40歳代48件（19.2%）で、20歳代38件（15.2%）、30歳代32件（12.8%）などでした。

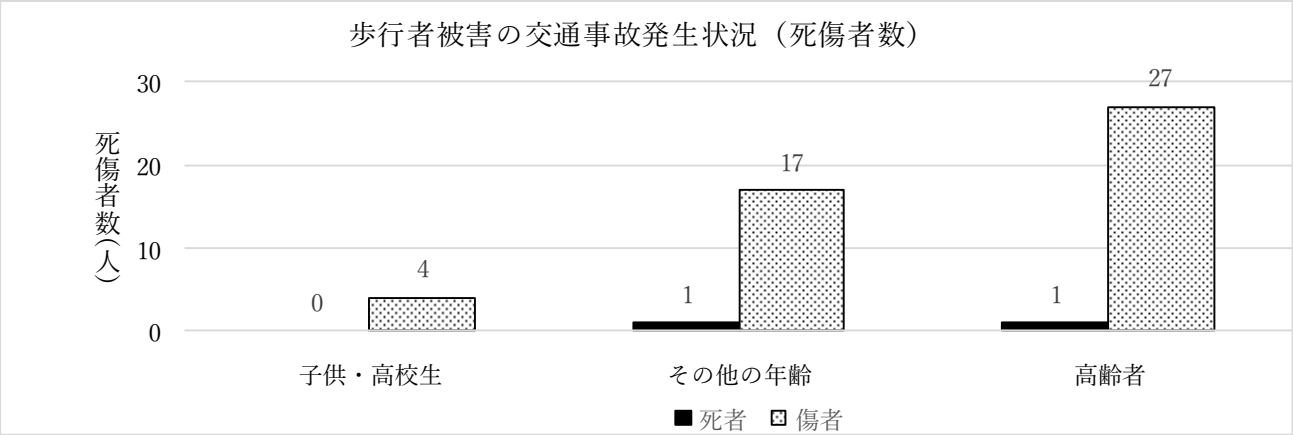


	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60～64 歳代	65～69 歳代	70～74 歳	75～79 歳	80 歳以上
件数	6	38	32	48	31	24	19	21	14	17

9　歩行者被害の交通事故発生状況

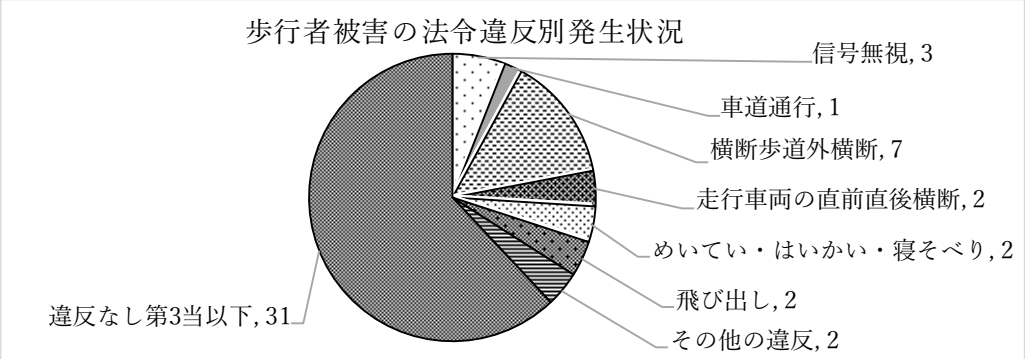
（1）　死傷者

歩行者被害における死傷者数は、世代別では、最も多いのは高齢者28人（56.0%）で、次いでその他の年齢18人（36.0%）でした。



（2）　法令違反別発生状況（死傷者数）

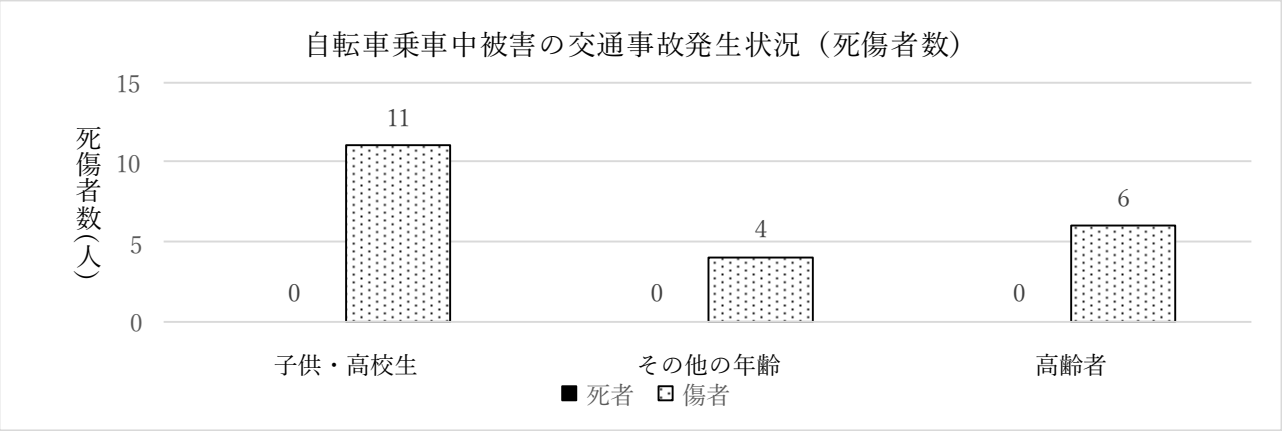
法令違反別で見ると、横断歩道外横断７人（16.7%）で、次いで信号無視３人（7.1%）でした。歩行中の死傷者50人のうち31人（62.0%）が違反を犯していませんでした。



10　自転車乗車中被害の交通事故発生状況

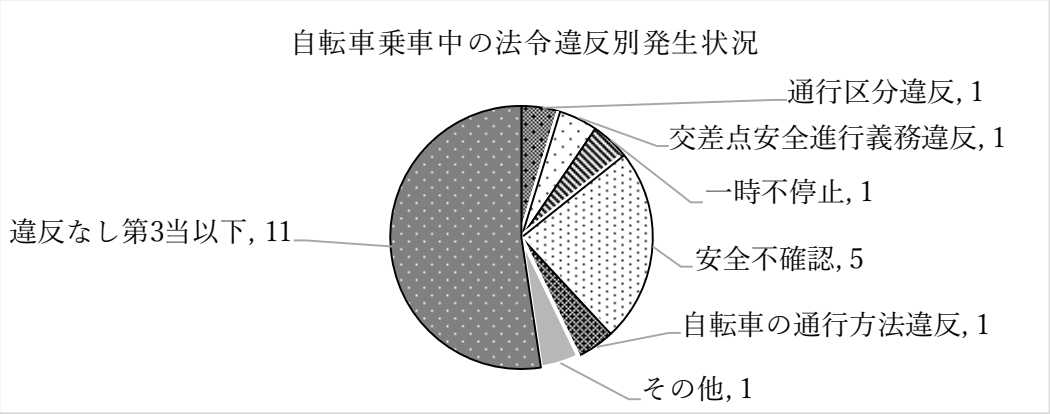
（1）　死傷者

自転車被害における死傷者数は、世代別では、最も多いのは子供・高校生11人（52.4%）で、次いで高齢者6人（28.6%）でした。



（2）　違反別発生状況（死傷者数）

違反別で見ると、最も多いのは安全不確認５人（23.8%）、以下通行区分違反、交差点安全進行義務違反等各１人（各4.8%）でした。自転車乗車中の死傷者21人のうち11人（52.4%）が違反を犯していませんでした。



11　道路別交通事故発生状況

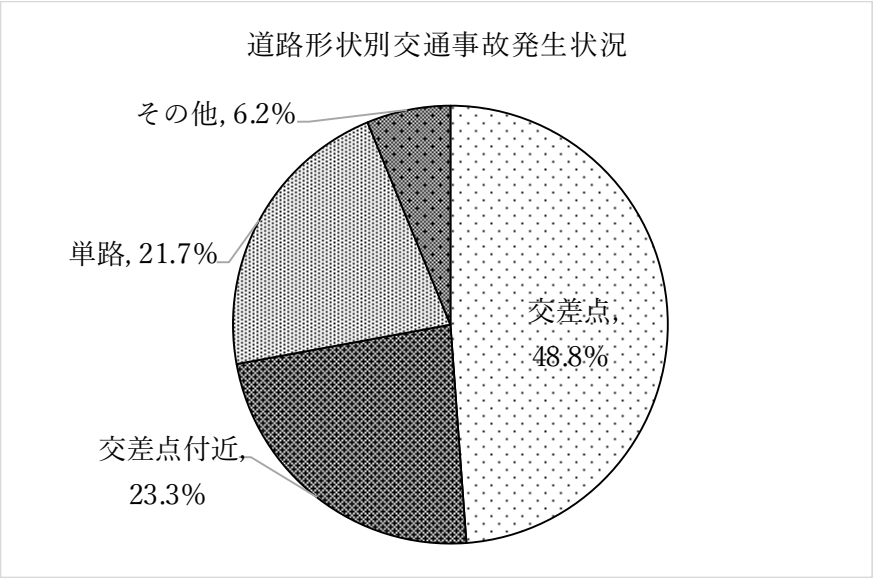
（1）　道路別

道路別では、平成28年から令和２年までの期間中の合計で、最も多いのは国道113件（43.8%）で、以下市道110件（42.6%）、高速道路13件（5.0%）、道道６件（2.3%）の順でした。

	国道				道道	市道	高速道路	その他	計
	国道 12 号	国道 38 号	国道 451 号	小計					
平成 28 年	18	6	1	25	1	28	2	7	63
平成 29 年	19	2	3	24	0	17	0	4	45
平成 30 年	15	4	2	21	2	20	9	1	53
令和元年	19	5	3	27	0	25	2	1	55
令和 2 年	12	2	2	16	3	20	0	3	42
計	83	19	11	113	6	110	13	16	258

（２） 形状別

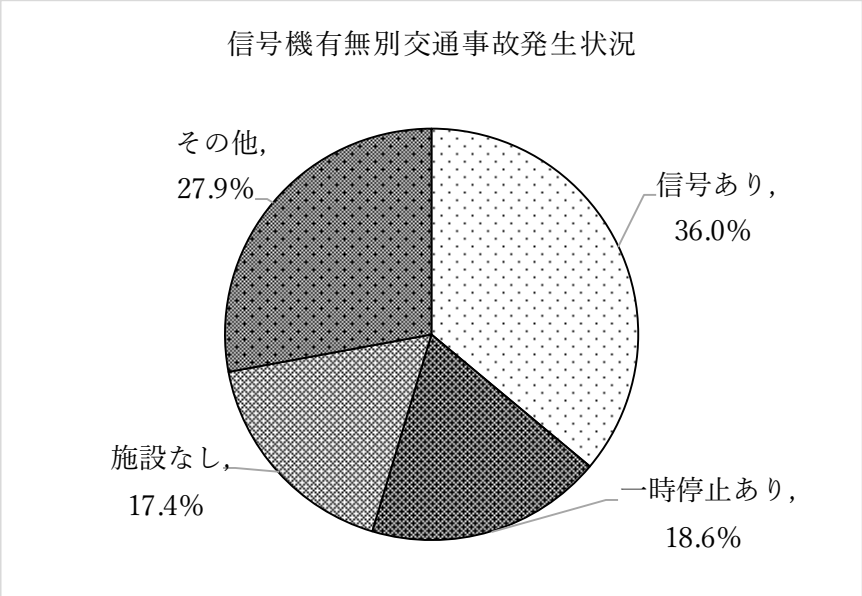
平成28年から令和２年までの交通事故258件の道路形状別発生件数では、最も多いのは交差点126件（48.8%）で、以下交差点付近60件（23.3%）、単路56件（21.7%）などでした。



	交差点	交差点付近	単路	その他
件数	126	60	56	16
率	48.8%	23.3%	21.7%	6.2%

（３） 信号機等の有無

平成28年から令和２年までの交通事故258件の信号機等の有無による発生件数では、最も多いのは信号あり93件（36.0%）で、以下一時停止あり48件（18.6%）、施設なし45件（17.4%）などでした。



	信号あり	一時停止あり	施設なし	その他
件数	93	48	45	72
率	36.0%	18.6%	17.4%	27.9%

まとめ

（事故の特徴）

１　交通事故発生件数は減少

第９次滝川市交通安全計画期間中に市内で発生した交通事故の件数及び死傷者数は、第８次滝川市交通安全計画期間中と比較すると大きく減少しています。交通死亡事故については、令和２年10月20日に、滝川市としては記録上はじめて交通事故死ゼロ1,000日を達成しました。

（※１ページ目の（2）死者数　滝川市　令和元年に１件とあるが、これは高速道路上の事故であるため、統計上この記録には含まれない。）

交通死亡事故は、第８次滝川市交通安全計画では６～９月の夏に多い傾向にありましたが、第９次滝川市交通安全計画期間中の交通事故全体の件数・傷者数は10月～３月の秋から冬に多い傾向が見られます。

２　人対車両の事故割合がゆるやかに増加

事故類型別では、「車両相互」が事故全体の72.1％を占めて最も多く発生し、以下「人対車両」18.2％、「自転車対車両」8.1％、「車両単独」1.6％でした。「人対車両」の事故による負傷者数は他の事故と比べて増加しており、全交通事故に占める割合がゆるやかに増加しています。

３　法令違反別事故発生状況は運転手等の不注意によるものが多い

法令違反別事故発生状況では、「前左右不確認」が最も多く発生し、以下「前方不注意」、「一時不停止」、「動静不注視」などを原因とする事故が多く発生しています。

歩行者の法令違反別事故発生状況では、「横断歩道外横断」、「信号無視」など無理な横断などによるものが多く発生しています。

自転車乗車中被害の交通事故発生状況では、「安全不確認」、「通行区分違反」、「交差点安全進行義務違反」など車両がいないとの思い込みや油断によるものが多く発生しています。

４　加害者に多い高齢者層、40歳代と若者のドライバー

加害者の年齢層別発生件数では、「65歳以上」の高齢者が71件28.4％となっており、以下「40歳代」48件（19.2％）、「20歳以下」と「20歳代」を合わせると44件で全体の17.6％を占め、高齢者と40歳代、若者ドライバーの事故が比較的多くなっています。

５　歩行者・自転車乗車中被害ともに多い高齢者と自転車乗車中被害が多い子供・高校生

歩行者被害では、「65歳以上」の高齢者が56.0％を占めていますが、子供・高校生は8.0％と他の年齢と比較しても少なくなっています。

自転車乗車中被害では、「子供・高校生」が52.4％と比率が高くなっており、高齢者は28.6％とその他の年齢よりも高くなっています。

６　信号機等のある交差点で多くの交通事故が発生している

道路別では、「国道」が43.8％で最も多くの事故が発生しており、続いて「市道」で42.6％の事故が発生しています。

道路形状別では、「交差点」が48.8％で最も多くの事故が発生しており、以下「交差点付近」

23.3%、「単路」21.7%でした。

信号機等の有無別では、「信号あり」が36.0%で最も多くの事故が発生しており、以下「一停あり」18.6%、「施設なし」17.4%でした。

（課題）

1　交通安全意識の啓発

滝川市では、信号機や一時停止標識のある場所で全体の約６割の交通事故が発生しています。交通事故の原因は、「前左右不確認」、「前方不注意」、「一時不停止」、「動静不注視」などで、車両運転者ばかりでなく自転車や歩行者も含め、油断や思い込みなどの不注意に起因するものが多くなっています。

少子高齢社会が進展する中、高齢者ドライバーが加害者となる交通事故の割合が増加し死亡交通事故の犠牲者の多くを高齢者が占めるようになっています。これは加齢による身体機能の低下により、視野が狭くなることや動体視力の低下、反射的な動作や判断の速さ、正確さに問題が生ずるといった要因が考えられます。

また、自転車被害については、高齢者はもちろんのこと、子供・高校生による事故が多くなっていることからそれぞれの世代に応じた対策が必要と考えられます。

さらに死亡事故の発生にはつながっていないものの、事故の多発する冬道における交通事故への取り組みも行っていく必要があります。

今後も交通事故を防止していくため、市民１人ひとりが交通ルールを遵守しマナーを実践していくとともに、自動車等と比べ弱い立場にある歩行者や高齢者など、交通弱者に関する知識や思いやりの心を育むことが重要であるため、世代や状態、季節に応じた「交通安全教育」や「交通安全運動」による交通安全意識の向上を図る必要があります。

2　交通安全環境の整備

滝川市の交通事故は、国道と道道で46.1%、市道で42.6%発生しています。道路延長は、市道が約454ｋｍと国道の約15倍、道道の約30倍となっており、膨大な延長の市道において効果的に交通安全対策を実施していく必要があります。

生活道路がある学校周辺や通学路などにおける交通危険箇所等に関する情報を学校、教育委員会、道路管理者、警察などの関係機関・団体が共有し、地域のニーズや交通事故データに基づき、交通安全環境の整備を図る必要があります。

令和元年度から、関係機関による通学路調査を行い、国道12号にガードポールの設置を要望し、設置に至りました。今後も、関係機関と連携した取り組みを行う必要があります。

また、子供や高齢者などが安心して移動することができるよう、歩行者・自転車の通行空間の確保を推進していく必要があります。

※資料３　滝川市の発生件数・死者数・傷者数については、北海道空知総合振興局環境生活課交通事故統計分析表より抜粋しております。